令和７年８月 28 日発行

『食の都庄内』旬だより

【日本なし（刈屋梨）】



主力品種の 「幸水」



生産者による生育調査(刈屋地区)

１　みずみずしい甘さとさわやかな食感が人気「刈屋梨」

○　県内の日本なしの結果樹※面積は、全体で 99ha（令和６年）となっており、うち庄内地域が約８割を占めています。主な産地は、酒田市刈屋地区と鶴岡市櫛引地区です。
※結果樹：なしの場合は植付けてから４～５年が経過し、果実が収穫できるようになった樹のこと。

○　庄内地域の中でも、酒田市刈屋地区は荒瀬川と日向川の合流する地点で、排水性の良い肥沃な土壌が堆積する場所であったことから、明治初期頃から日本なしの栽培が始まり、「刈屋梨」として特産品の一つとなっています。

○　昨年７月 25 日の大雨による河川の増水により、刈屋地区では、なし園地 40ha のうち８ha が棚上までの浸水被害を受けましたが、その後の生産者による自力での復旧作業もあり、今年は約 36ha で栽培が行われています。

○　今年の生育状況は、７月の高温・少雨の影響によりやや小玉傾向ですが、概ね順調に生育しています。

○　収穫は、全体の７割を占める「幸水」が８月下旬から始まります。「幸水」は、甘くジューシーでサクッとした食感が特徴です。その後、甘味と酸味のバランスの良い「豊水」が９月中旬から、続いて、甘く上品な食感の「あきづき」が９月下旬から収穫され、なしの出荷は 10 月中旬頃まで続きます。

２　大雨災害からの復興キックオフイベントを開催

○　地域の方々が刈屋梨産地の早期復興に取り組んでいることを広く周知するとともに、令和７年産の刈屋梨のおいしさをＰＲする「刈屋梨復興応援直売会」を開催します。
・日時　８月 29 日（金）午前 10 時～午後２時
・場所　いろは蔵パーク（酒田市上本町７-50）